

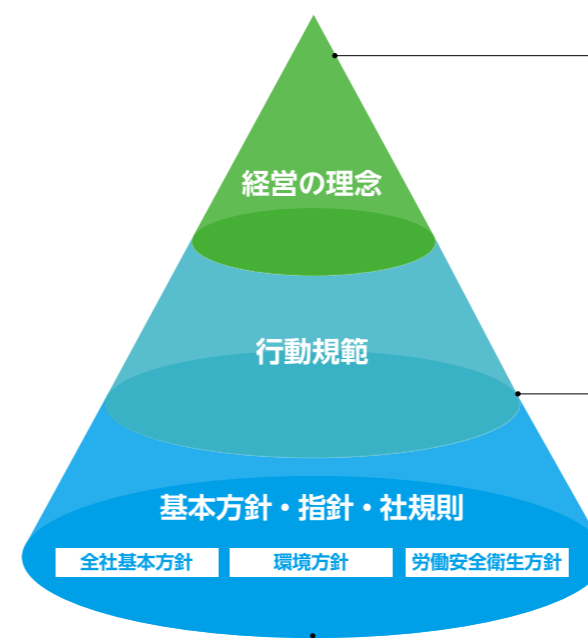


前田道路のCSR

快適で潤いのある生活空間を創造し、
豊かな地域社会の発展に貢献する



前田道路CSR理念体系図



経営の理念

当社は、ひろく社会資本の整備に貢献し、地域社会の豊かな生活の向上に寄与することを企業活動の使命と自覚します。

信義・誠実の原則のもと誇りと責任をもって、人と環境を大切に
した事業活動を推進し安全を第一として、より優れた技術と品質
の提供により快適で潤いのある生活空間の創造を目指し、豊かな
地域社会の発展に貢献します。

行動規範

当社は、「企業活動を通じて健全な成長と豊かな地域社会の発展
に貢献するため、相互の信頼に立脚し、信義にもとづき、誠実に
行動する」ことを行動規範として定め、全役職員が推進します。

基本方針・指針・社規則

当社は、行動規範の具体的な取り組みを、基本方針・指針・社規則に定め、品質向上や環境へ配慮し、人と環境を大切に
する事業活動を実践します。

全社基本方針

顧客のニーズに応え、人と環境にやさしい道づくりを基本とし、顧客と地域社会に信頼感・安心感・満足感を与える品質を提供する。

上記方針を確実にするための優先項目

- 労働安全衛生活動の推進と、地球環境の保全に努めます。
- 品質と顧客満足の上昇のために、マネジメントシステムを継続的に改善します。
- 法令・規制、倫理規範を遵守した企業活動により、社会的責任を果たします。

環境方針

当社は、「舗装及び土木建造物の施工並びに合材及び再生材の製造」活動において、環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的改善を行い、地球環境および社会・生活環境の保全に積極的に取り組みます。

- 事業活動の全段階において、地球環境および地域環境に与える影響を的確に捉え、技術的・経営的に可能な範囲で、環境保全活動の継続的な改善向上を推進します。
- 地球温暖化、酸性雨、廃棄物等の環境問題を解決するために、環境保全、省エネルギー、省資源、リサイクルを可能とする技術および製品の開発に積極的に取り組みます。
- 環境関連の法律、規制、協定の要求事項を遵守するに止まらず、さらに自主基準を制定し環境保全の向上に努めます。
- 環境教育、啓蒙活動などを実施し、全従業員および協力業者へ環境方針の周知と環境に関する意識向上を図ります。
- これらを推進するため、すべての組織および従業員が活動できる環境管理組織を整備します。

環境に関する報告はP23へ

労働安全衛生方針

当社は、「経営の理念」「全社基本方針」に基づき、道路および土木建造物の施工ならびにアスファルト合材の製造の事業活動において、労働安全衛生マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的改善を行い、災害・事故防止と健康維持のために全員で積極的に取り組みます。

- 災害・事故防止と健康維持のために、次の事項を重点項目と定め、P・D・C・Aのサイクルを効果的に運用し、労働安全衛生パフォーマンスの改善を行います。
 - 重大災害の撲滅
 - 交通事故の撲滅
 - 長時間労働の撲滅と作業環境の向上
 - 危険性、有害性の調査による潜在的な事故防止
 - ヒヤリハットの情報収集による、予防型の安全活動
- 労働安全衛生に関連する法規制、協定、業界の規範、当社で定めた規則を遵守します。
- 当社は従業員およびすべての要員にこの方針を周知徹底し、労働安全衛生マネジメントのプログラム運用のための教育・訓練を実施し、パフォーマンスの改善に寄与します。

労働安全衛生に関する報告はP31へ

見た目は同じでも省エネ、人と地球にやさしい道路。



なぜやるの？

地球温暖化への対策は、待ったなしの状態です。

地球温暖化の影響は、生活の中で実感しやすい真夏日や豪雨の増加以外にも、氷河の融解、海面水位の上昇、水質悪化、食料生産・生態系の変化など、さまざまな場面に及んでいます。このままの状態では温暖化が進行した場合、さらに状況は悪化すると予測されており、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書では、「経済」、「世界の安全」、「人間の生命」を脅かすまでになると言及されています。地球温暖化の一因とされる温室効果ガス（GHG）の排出は、今なお続いています。人間の営みによって地球に与えているダメージを、一刻も早く食い止めなければなりません。私たちは、未来に向けた最後のチャンスを迎えています。

どんな取り組み？

CO₂排出量を最大20%削減するフォームドアスファルト合材「LEAB合材」。

当社では、継続して温室効果ガスの一つであるCO₂排出量削減に取り組んでいます。道づくりに使用するアスファルト合材は製造時に大量のCO₂を排出することから、新たにフォームドアスファルト技術を開発し、2012年より導入しています。この技術は、高温のアスファルトに少量の水を混ぜ発泡させることで合材製造時の温度を20～30℃低下させるもので、その結果、CO₂排出量を最大で20%削減することができます。

また、この技術により製造したアスファルト合材は、従来よりも低い温度帯での施工が可能のため、施工時の熱放出を抑えると同時に、作業員の熱中症対策としての効果も期待できます。今後も製造と施工のそれぞれの段階で、地球温暖化防止に貢献していきます。

「気候変動への取り組み」はP24-25へ
「環境配慮・持続型技術」はP29へ

なぜやるの？

安全な社会インフラの維持に向けて。

路面は、通行車両による荷重や降雨などの環境要因により、ポットホールと呼ばれる穴やくぼみ、段差が発生します。ポットホールは歩行者や自転車の転倒につながるほか、重大な交通事故の原因となることもあるため、迅速かつ耐久性のある補修が求められます。これは、SDGs（持続可能な開発目標）のターゲットの一つ、「2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる」ことにも深く関係しています。

また、昨今頻発する自然災害においても、被災地への物資輸送や地域の生活復興に向け、早期の道路復旧は欠かせないものとなっています。

どんな製品？

高い耐久性と環境性能を有する常温合材「マイルドパッチ」。

当社は、水をかけて踏み固めるだけで施工できる常温アスファルト混合物「マイルドパッチ」を開発しました。これは特殊な化学反応技術を用いたもので、強度発現が早いことから、迅速な施工と早期の交通開放が可能です。また、揮発硬化タイプの常温アスファルト混合物と比較して耐久性が高いため、補修頻度を抑えることができ、材料使用量の低減につながるほか、材料自体を植物由来^{*}に置き換えるなど、地球環境に配慮した舗装を実現しています。

「マイルドパッチ」は、長時間の交通規制が困難な配送センターの路面補修にも活用され、物流網の維持に寄与しています。早期の災害復旧などにも貢献しています。

^{*} 結合材としてのアスファルトのうち、約50%を植物由来の材料に置き換え。



マイルドパッチ

危険な凸凹をすばやく補修、しかも長持ち。



いつも通るあの道は、リサイクルの優等生。

なぜやるの？

限りある資源を守るために。

私たちは、自然の恵みを享受しながら生活しています。これは、道づくりにおいても例外ではありません。道路に使用されるアスファルト合材は、砕石や砂、原油の精製によってつくられるアスファルト等を加熱混合したのですが、これらの資源も限りがあります。例えば砂資源では、国連環境計画の「砂と持続可能性」に関する報告書の中で、砂不足の状況と、それに伴う河川や海岸侵食、生物多様性への影響について警鐘が鳴らされています。都市化やインフラ開発が進み、アスファルト合材やコンクリートが大量に使用されている中で、いかにして資源を循環させ、自然への影響を食い止めるか。道づくりを担う当社が向き合うべき課題の一つです。

どんな取り組み？

廃棄物となるがれきから、再び道路の材料を生み出す「産業廃棄物処理施設」。

当社は、道路の改修や建物の解体時に発生するアスファルト塊やコンクリート塊などの産業廃棄物をリサイクルしています。全国に有する産業廃棄物処理施設で受け入れた廃棄物は、中間処理され、ほぼすべてがリサイクル製品に生まれ変わります。道路の材料であるアスファルト合材に再利用したり、道路や建設工事の再生路盤材として販売しています。

再生品の需要が高まっている中、今、目の前にある道路は、以前には見知らぬ誰かの生活を支えていたかもしれない。「道を通じたつながり」への新たな視点です。

 「資源循環型社会の構築」はP26へ



雨水を地下での的確に制御する。

なぜやるの？

豪雨による被害が深刻化しています。

昨今、局地的豪雨が各地に甚大な被害をもたらしており、都市部でもヒートアイランド現象などの特異な気候による“ゲリラ豪雨”が頻発しています。「国土交通省水害レポート2021」によると、1時間降雨量が50mmを超える短時間降雨の年間発生回数は、1976年～1985年(平均226回)と比較して、2012年～2021年は約1.4倍(平均327回)に増加。突然の激しい雨により、マンホールや側溝から水があふれ、地下街や駅、店舗に水が流れ込んだり、駐車場が冠水したりするなど、人々の生活に大きな影響を及ぼしています。局地的豪雨の一因とされる地球温暖化への対策を行うと同時に、水災害のさらなる頻発化・激甚化に備え、防災・減災への取り組みが求められています。

どんな製品？

雨水を一時的に貯留し、ゆっくりと地下に浸透・放流する「アクアプラ®工法」。

都市型水害への対策として、各地の条例では、地域開発や建造物の建設を行う際に「雨水流出抑制施設」*を設置することが義務化されつつあります。当社では、プラスチック製の構造体を地下に組み立てて埋設する「アクアプラ®工法」を採用し、バイオマス発電所やマンション、工場など、さまざまな施設で施工を行っています。

また、貯留した雨水を非常用水として使用できる手押しポンプや、地上の植物に水やりができる灌水装置の設置など、雨水を有効利用する水循環システムの構築も進めています。今後も事業活動を通じて社会に安心を提供するとともに、潤いのある都市環境の創出にも取り組んでいきます。

* 雨水を一時的に貯留して流出を抑制し、徐々に地下に浸透または調整放流するための施設。